

部 長 藤 岡 幹 根
研究主任 土 屋 永 子
部 員 数 2 1 名

1 研究主題

新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども
—子どもの思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業—

2 はじめに

昨年度までは、「自らの生活を切り拓く子ども」—体験を通して、仲間と
気付き合い、つながる授業を目指して—という研究主題の下、研究を進めて
きた。

今年度は、新学習指導要領の実施に向けて、研究主題を変更した。新学習
指導要領では、具体的な活動や体験を通じて、「身近な生活に関する見方・
考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成す
ることが明確化された。また、具体的な活動や体験を通して気付いたことを
もとに考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするこ
とができることが大切であると考えた。活動や体験を通して気付いたことな
どについて多様に表現し考えたり、多様な学習活動を行ったりする活動を重視
することになった。

これらの内容をふまえ、研究主題を「新たな価値を創出し、生活の中に生
かす子ども」—子どもの思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業—と設
定し、研究を進めることとした。

3 研究経過

1年生部会と2年生部会に分かれ、部会ごとに情報交換をし、実践報告す
る単元を決定した。1年生部会では、「がっこう だいすき」「きれいに さ
いてね」「なつだ あそぼう」「たのしい あき いっぱい」、2年生部会
では、「大きく なあれ わたしの 野さい」「ドキドキ わくわく まち
たんけん」「うごく うごく わたしのおもちや」「みんなで つかう ま
ちの しせつ」を実践単元とし、各学校で実践を行った。

実践報告では、次の内容を報告した。

- ・ 単元全体の目標や実際の指導、そこで見られた子どもの様子
- ・ 教師の支援
- ・ 単元終了後、子どもたちが新たな課題や思い持つことができたのか

次に、子どもがどのような思いや願いを持ち、それを実現するためにどの
ように行動したか、そこからどのような気付きが見られたのかを、それぞ
れの部会ごとに考察した。最後に、これから学習する単元や活動についての情

報交換を行った。

昨年度の反省で、講師を招いての講演会を希望する声が多く上げられたことを受け、愛知教育大学の加納誠司教授を招き、新学習指導要領実施に向けてのこれからの生活科のあり方について講演を聞いた。

4 研究の概要

(1) 主に自分と人や社会との関わりに関する単元

- 1年生「がっこうだいすき」
- 2年生「ドキドキわくわくまちたんけん」「みんなでつかうまちのし
せつ」

ア 目標

自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心をもち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

イ 手立て・実践

1年生では、学校内の探検、2年生では、自分の校区の探検、図書館やコミュニティセンターといった公共施設見学を計画した。各校独自にワークシートを作成し、グループ活動なども取り入れ、身近な場所の様子に目を向け、自分たちが生活する場所にどのようなものがあるのか、どのような特徴があるのかを調べた。実際に探検し見ることで、多くの発見があった。学校探検では、自分の学校には多くの教室があり、様々な設備があることに気付いた。校区探検や公共施設の探検では、自分の地域には、様々な建物、自然があること、そこに暮らす人々が様々な生活を送っていることに気付いた。また、地域に暮らす人のために働く人の存在に気付くこともできた。子どもたちは、見つけたものをワークシートに意欲的にまとめたり、ふり返ったりしていた。学習を通して、自分の生活する学校や地域への思いを深めることができた。見学のマナーや安全に気を付けて生活することについても考えることができた。



1年生 学校探検の様子



2年生 校区探検の様子

(2) 主に自分と自然との関わりに関する単元

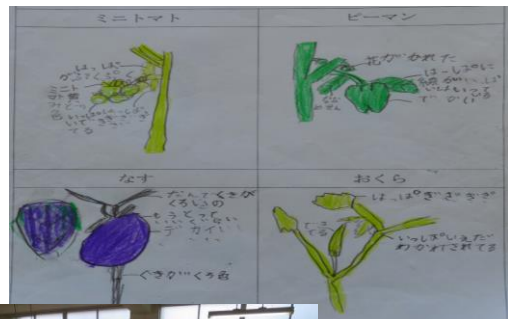
- 1年生「きれいにさいてね」「なつだあそぼう」「いきものとなかよし」「たのしいあきいっぱい」
- 2年生「大きくなあれわたしの野菜」「うごくうごくわたしのおもちや」

ア 目標

自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然のすばらしさに気づき、自然と大切にしたり、自分たちの遊びや生活に工夫したりすることができるようにする。

イ 手立て・実践

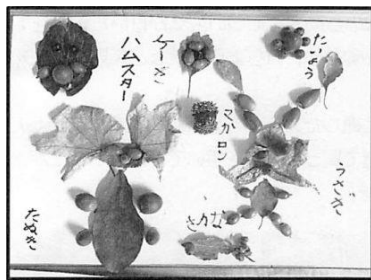
(ア) 1年生では、あさがお、2年生では、野菜を栽培した。自分の育てている植物に愛情をもち、成長する様子を楽しみにしていた。意欲的に世話をしたり、成長を記録したりする姿が見られた。観察とともに、植物を使って様々な活動を行った。1年生では、あさがおの花で色水やたたき染めをして遊んだ。秋には、あさがおのつるでリース作りを楽しんだ。2年生では、野菜を収穫し、家庭で調理してもらったり、収穫したさつまいもを使ってカップケーキなどを作ったりした。「もっと花を咲かせたい。」「もっと実を大きくしたい。」という思いをもち、世話の仕方を家庭で聞いたり、本で調べたりした。植物の栽培を通して、自然のすばらしさに触れることができた。



栽培した植物とかかわる活動の様子

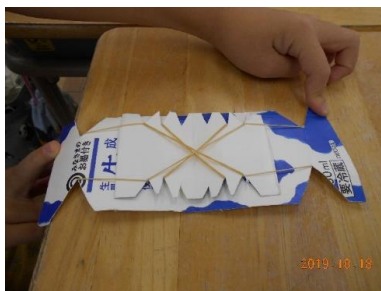
(イ) 身近にある植物や虫とかかわる活動では、自然に直に触れることを大切にしながら実践に取り組んだ。自然を利用した遊びを積極的に取り入

れた。どんぐりを使ったおもちゃ作りや落ち葉を使った図工作品を制作した。生き物を探して飼育の仕方を調べたり、実際に飼育したりした。生き物について新たな発見をするとともに、生き物を大切にすることを学んだ。



自然とかかわる活動

(ウ) 2年生「うごく うごく わたしのおもちゃ」では、おもちゃを作り、さらに工夫して、もっと楽しめるおもちゃになるよう改良を加えた。友達に意見を求めたり、一緒におもちゃを作ったりする活動を取り入れた。「もっと高く跳ぶおもちゃを作りたい。」「もっと遠くに進むおもちゃを作りたい。」という思いをもち、自分なりに工夫する姿が見られた。出来上がったおもちゃを使って、保護者や1年生を招待しておもちゃ屋さんを開いた。おもちゃで楽しく遊んでもらえるよう、おもちゃの数を増やすグループや、ルールが書かれた掲示物を作るグループがあった。自分たちの力でおもちゃ屋さんを成功させることができて、満足感を味わうことができた。



「うごく うごく わたしのおもちゃ」の活動の様子

(3) 講演

愛知教育大学の加納誠司教授より、「新しい教育課程でめざす生活科授業の創造」というテーマのもと、新学習指導要領で求められている学力や授業の在り方についてお話をいただいた。

5 今後の課題

生活科という教科の特性から、子どもたちは主体的に学習に取り組んでいた。それぞれの単元において、自分なりに思いや願いを持って学習している姿が見られた。しかし、単元によっては、生活経験が乏しいため、自分の思いや願いを実現するにはどうしたらよいのか考えられないことがあった。また、子どもの気づきの内容には個人差がある。子どもの思いや願いを実現するために、そして気づきの質を高めていくために教師の支援の方法をさらに追究していきたい。